

少雨に対する農作物技術対策（第2報）

平成28年6月15日
農政部経営技術課

1 水稻

(1) 育苗管理

育苗日数の延長が予想されるので、苗の徒長・老化を防止するため次の対策を行う。

ア 苗へのかん水は極力控える。

イ 育苗ハウスの場合は昼夜とも換気を徹底する。外に並べている場合はできるだけ通気をよくする。

ウ 播種後25～30日を過ぎると肥切れしてくるので、窒素成分で箱当たり0.5～1.0gを追肥する。

エ 育苗期間が長引くと苗いもちが発生しやすいので、登録農薬を散布する。

オ 苗が軟弱徒長し（苗丈が23cmを超える）、移植作業に支障をきたす（苗がブリッジ状に移植される）場合は、以下に注意し剪葉を行う。また、剪葉により、数日老化を防ぐことができる。

◇ カット部位は、第2葉の中央部、地面から15～18cm程度で行う。

◇ 切れる刃物で行い、葉先を箱内に残さない。

◇ 活着促進のため窒素成分で箱当たり0.5～1.0gの追肥を行う。

◇ 苗いもちが発生しやすくなるので、登録農薬を散布する。

カ 苗が多少伸びても、がっちりした苗質（移植・湛水後水面に苗が垂れないような）で移植作業に支障がないと想定される場合は、剪葉は行わない。

(2) 代かき、田植えについて

ア 用水管理者や地域で協議し、水系毎に番水方式等を行うなど計画的に水利調整を行い、代かき、田植え作業を行う。

イ 代かき前には場内に通水用の溝を作り、短時間に水が回るようにする。また、もぐら穴などによる畦畔からの漏水を防ぐ。

ウ 代かきは1行程多く行い、水もちをよくする。

エ 移植後は水のかけ流しは行わず、日中止水、夜間かん水により節水に努める。

オ 活着期は湛水が望ましいが、用水不足の場合、できるだけ湿潤状態を保つようにする。

(3) 生育中期の本田対策

ア 用水管理者や地域で協議し、水系毎に番水方式等を行うなど計画的に水利調整を行う。

イ もぐら穴などによる畦畔からの漏水を防ぐ。

ウ 早植栽培で、分けつ盛期～最高分けつ期になっているほ場では、必要とする水量が少ないので、普通植の活着期のほ場を優先的にかん水する。